

第2期

磐田市

スポーツ推進計画

令和8年度 ▶ 令和12年度



令和8年3月
磐田市

目次

第1章 計画の概要.....	1
1. 計画策定の趣旨.....	1
2. 計画の位置づけ.....	2
3. 計画の期間.....	2
4. スポーツの意義と定義.....	3
5. 持続可能な開発目標（SDGs）.....	4
第2章 スポーツを取り巻く磐田市の現状と課題.....	5
1. 磐田市を取り巻く環境.....	5
2. アンケート調査からみる現状.....	6
3. スポーツのまち いわた.....	8
第3章 計画の基本的な考え方.....	9
1. 計画の基本理念.....	9
2. 目指す姿.....	9
3. 施策体系.....	10
第4章 具体的な施策展開.....	12
1-1 こどものスポーツ機会の充実.....	12
1-2 スポーツによる健康づくり.....	14
2-1 スポーツの力を活用した新たな価値の創造.....	16
3-1 スポーツによる魅力発信.....	18
3-2 プロスポーツチームを活かしたまちづくりの推進.....	20
4-1 スポーツを通じた共生社会の実現.....	22
4-2 スポーツに親しめる環境づくり.....	24
第5章 計画の推進にあたって.....	26
1. 計画の推進体制.....	26
2. 計画の点検・評価.....	27
3. 成果指標一覧.....	28
資料編.....	29
1. 磐田市スポーツ推進審議会委員名簿.....	29
2. 市内運動施設一覧.....	30
3. ホームタウンチームの紹介.....	31

第1章 計画の概要

1. 計画策定の趣旨

近年、少子高齢化や核家族化等の進行により社会構造が大きく変化し、地域コミュニティの希薄化や健康寿命の延伸と健康格差といった社会課題が顕在化しています。

こうした背景の中、スポーツは単なる競技や身体活動にとどまらず、人々の心身の健康増進、多世代交流の促進、地域の一体感醸成に不可欠な役割を担うものとして、その重要性が再認識されています。

本市においては、平成28年3月に「磐田市スポーツ推進計画」を策定し、「年齢や性別、障がい等を問わず、市民一人ひとりが、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境の整備」を目指しスポーツの推進に向けた様々な施策を展開してきました。

また、令和2年度には、計画の中間見直しを行い、スポーツの実施率が低い30歳代～50歳代までの働き盛りの世代における生活とスポーツの両立を推進するとともに、コロナ禍における生活様式をふまえたスポーツ機会の確保といった新たな課題への対応などにも取り組みました。

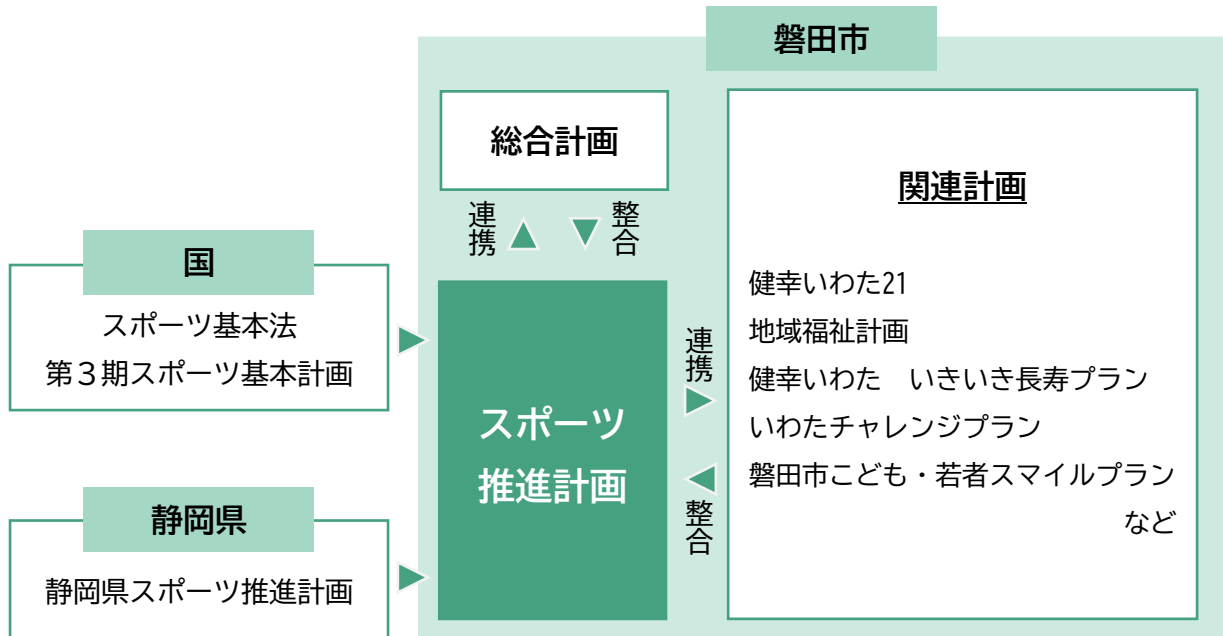
このような中、「磐田市スポーツ推進計画」が令和8年3月末で計画期間の満了を迎えることから、これまでの取組を引継ぎながら、社会情勢やライフスタイルの変化等をふまえ、今後5年間のスポーツ施策の総合的な推進を図るための計画として、「第2期磐田市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という）を策定しました。

本計画においては、市民のだれもがスポーツに親しむことができるようスポーツの推進に取り組むとともに、本市のスポーツの持つ力を地域の様々な課題の解決に向けて互いにつながり「共創」するために活用することで、魅力ある磐田の実現に向けて取り組んでいきます。

2. 計画の位置づけ

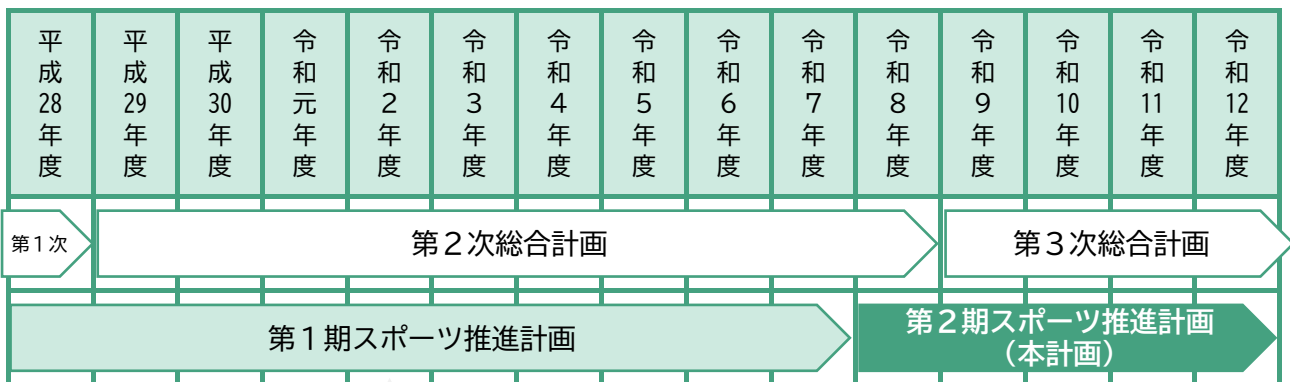
本計画は、「磐田市総合計画」で掲げているまちの将来像の実現に向け、スポーツに関する施策について、具体的な取組を示した5年間の計画です。

上位計画である「磐田市総合計画」の下、関連計画や国、静岡県との整合を図ったうえで、本市のスポーツに係る基本計画として策定します。



3. 計画の期間

本計画の計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。



5年目に中間評価

4. スポーツの意義と定義

(1) スポーツの意義

スポーツを実施することは、心身の健康増進や体力の向上に役立ち、精神的な充足感や自律心を育みます。年齢や障がいの有無にかかわらず、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に必要不可欠なものです。

また、地域社会においては、人々の交流を促進し、一体感や活力を生み出すことで、地域社会の再生に寄与するとともに、ホームタウンチームや地元出身選手の活躍は、市民に夢や感動を与え、まちの象徴となり、地域の誇りを育みます。

(2) 本計画におけるスポーツの定義

スポーツ基本法において、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」であると定義づけられています。

この考え方をふまえ、本計画では、競技としてのスポーツはもちろんのこと、体を動かす遊びや、健康づくりの体操、日常生活における身体活動などを幅広く「スポーツ」と捉えています。

さらに、スポーツを「する」ことに加え、「みる」「ささえる」といった関り方や、スポーツを通じて「あつまる」「つながる」といった活動についても、本計画の対象としています。

広く捉えたスポーツ

ラジオ体操 サイクリング 鬼ごっこ
ひとつ前のバス停から歩いて通勤・・・すべてスポーツです



狭く捉えたスポーツ・運動

- 勝敗や記録の向上を目的とし、ルールに則って実施する運動競技
- 健康や体力の保持増進を目的とし、計画的・継続的に実施する身体活動



5. 持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成13年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された平成28年から令和12年（2030年）までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

スポーツ庁においては、SDGsの達成にスポーツで貢献していくこととしており、本計画の推進においても「スポーツの持つ力」を活用することで持続可能な社会づくりに貢献していきます。

【持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標】

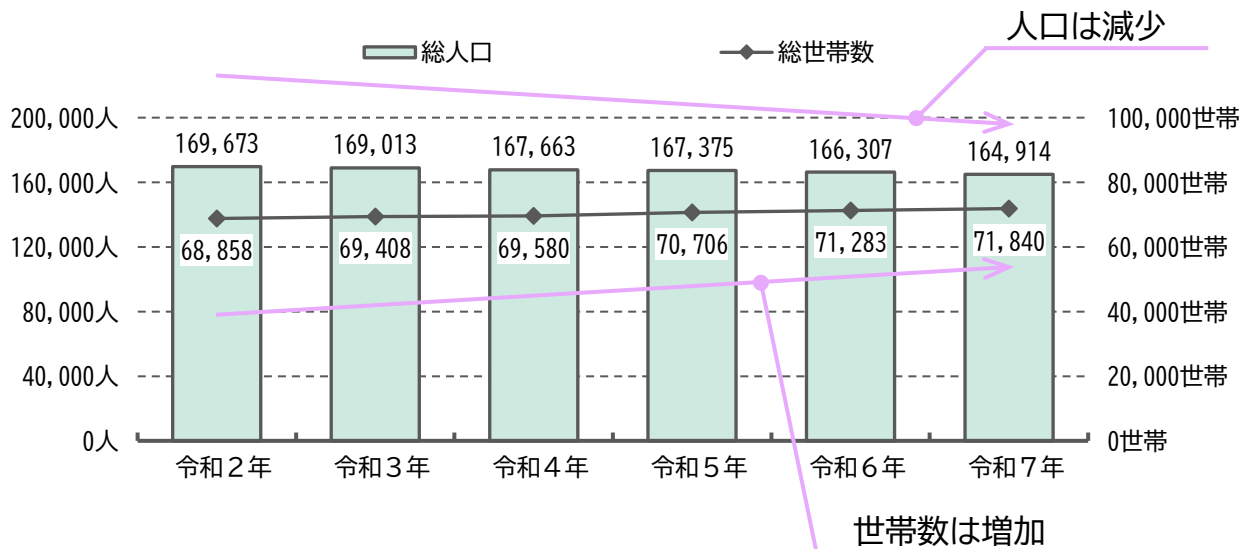


第2章 スポーツを取り巻く磐田市の現状と課題

1. 磐田市を取り巻く環境

(1) 総人口と年齢3区分別人口の状況

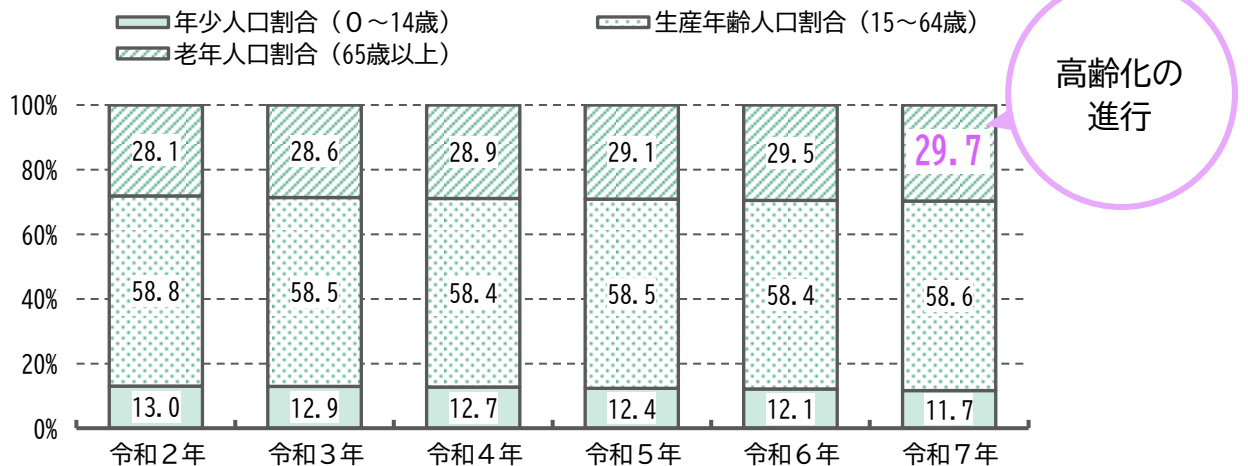
本市の人口は減少傾向で推移しており、令和7年3月末現在の総人口は164,914人、総世帯数は71,840世帯となっています。令和7年は令和2年と比べて総人口が2.8%減少、世帯数が4.3%増加しています。



資料：住民基本台帳（各年3月末現在）

(2) 年齢3区分別人口割合

年齢3区分別人口割合をみると、生産年齢人口割合はおおむね同じ水準で推移していますが、年少人口割合は減少傾向で推移し、老年人口割合は増加傾向で推移しています。

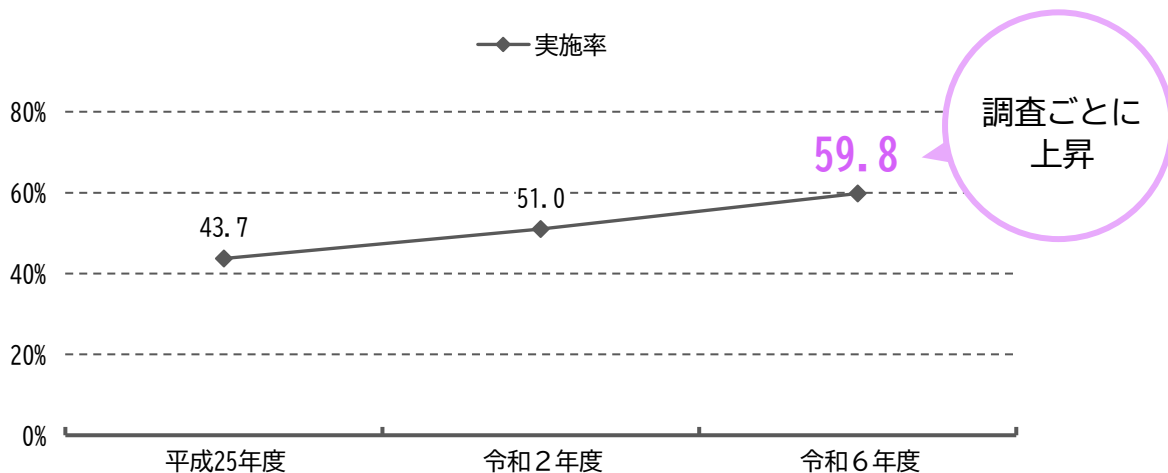


資料：住民基本台帳（各年3月末現在）

2. アンケート調査からみる現状

(1) スポーツ実施率

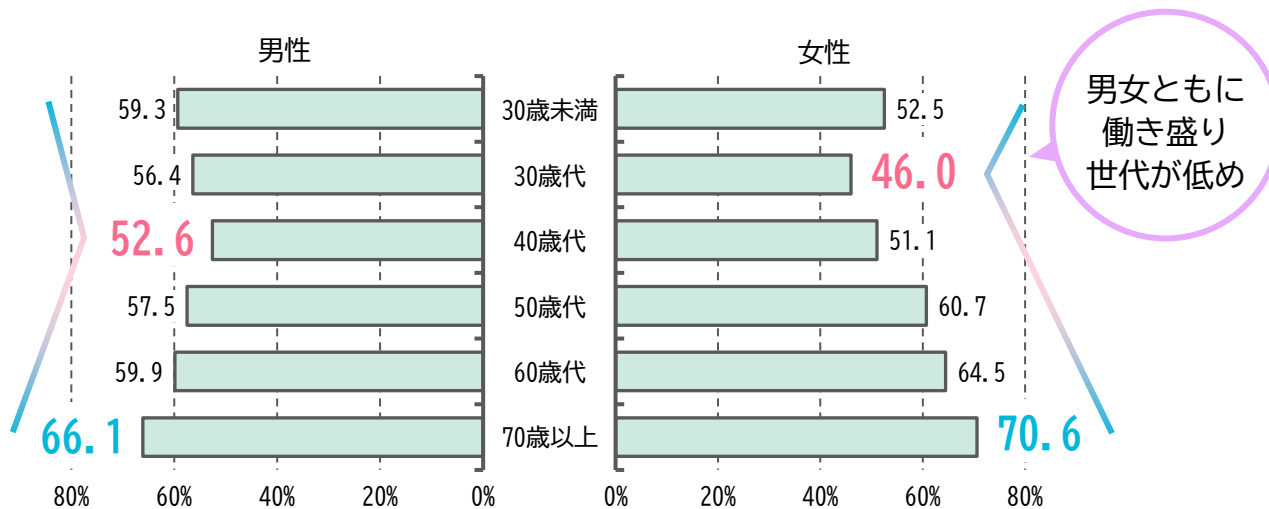
スポーツ実施率とは、スポーツを定期的（週1回以上）行っている成人の割合のことです。令和6年度の成人（18歳以上）のスポーツ実施率は59.8%となり、磐田市スポーツ計画（中間見直し）の目標値である60%を概ね達成できました。



(2) 年齢別・性別のスポーツ実施率

市民のスポーツ実施率を年齢別にみると、男女とも70歳以上が最も高く、次いで60歳代となっています。一方、男性では40歳代、女性では30歳代が最も低くなっています。

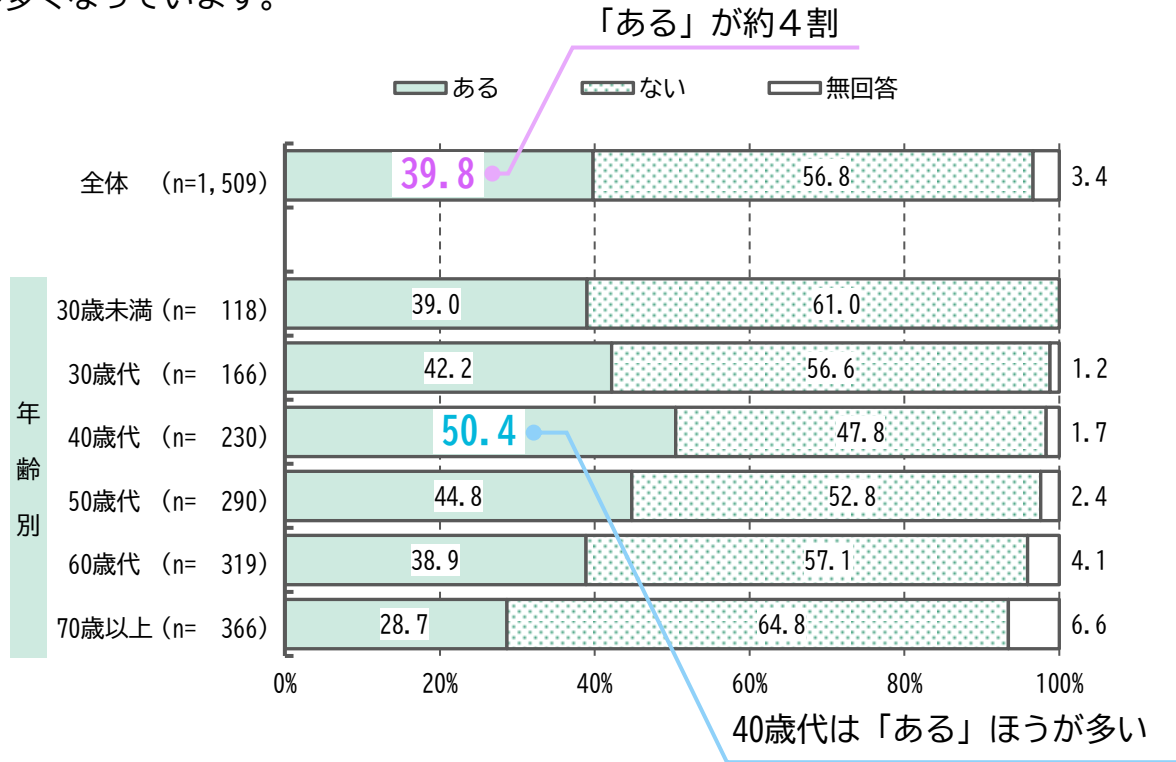
また、男性全体の実施率は59.6%、女性全体の実施率は60.1%となっており、大きな差はみられませんでした。



(3) スポーツを観戦した人の割合

過去3年間の現地でのスポーツ観戦の有無については、「ある」が39.8%、「ない」が56.8%となっています。

年齢別で見ると、“40歳代”では「ある」が50.4%、「ない」が47.8%と、「ある」のほうが多くなっています。



3. スポーツのまち いわた



スポーツのまち NO.1

本市は、複数のプロスポーツのホームタウンであり、全国的にも「スポーツのまち」と認識されています。また、魅力的なスポーツ施設を複数有することや、全国から参加者が集まる特色あるマラソン大会を実施しています。全国に向けて取組を発信していくことで、スポーツのまちNO.1を目指していきます。

(1) ホーム&ホストタウンチームの存在



本市は「ジュビロ磐田」「静岡ブルーレヴズ」「静岡SSUボニータ」と3つのトップチームを擁する「スポーツのまち」です。

ホーム&ホストタウンチームの存在は、市民の間に強い一体感を生み出しています。

(2) 魅力的なスポーツ施設



市内には5面の天然芝コートを整備しており、2002年のサッカーワールドカップ、2019年のラグビーワールドカップをはじめ、Jリーグチーム、なでしこチームなどトップアスリートのキャンプ地としての実績が多数あります。

(3) 特色あるスポーツイベント



「ジュビロ磐田」のホームスタジアムであるヤマハスタジアムをスタートし、市内を多くのランナーが駆け抜ける「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」をはじめ、トップチームやアスリートと連携した、魅力あるスポーツイベントの開催に取り組んでいます。

第3章 計画の基本的な考え方

1. 計画の基本理念

本市では、スポーツが持つ「人と人をつなぐ力」「健康を育む力」「地域を活性化する力」「夢と感動を与える力」を最大限に活用し、年齢・性別・障がいの有無を問わず、すべての市民が自分らしく輝ける社会を目指しています。

単にスポーツを「する」だけでなく、「みる」「ささえる」、さらには「あつまる」「つながる」ことを通じて市民一人ひとりのWell-beingを向上させ、スポーツを核としたまちづくりをすることで、次世代に誇れる持続可能な地域社会を実現したいという思いを込めています。

Well-being (ウェルビーイング) とは:「良い (well) + 状態 (being)」という言葉からなり、持続的に身体的・精神的・社会的にも満たされた「幸せな状態」であることを指します。

「スポーツの力で創る みんなが輝くまち いわた」 ～Well-beingな暮らしと持続可能な地域社会の実現～

2. 目指す姿

「スポーツの力で創る みんなが輝くまち いわた」を目指し、4つの基本方針のもと、施策を展開していきます。

1 > スポーツ×健幸

ライフステージを通じて、年齢や能力に関わらず、日々の運動習慣により心身ともに健康で生き生きと暮らせるまちを目指します。

健幸とは:健康は幸せの源であり、生涯を通じて健康かつ生きがいを持ち、豊かで幸せな生活を営んでいる状態という考え方(概念)による造語です。

2 > スポーツ×共創

スポーツを地域資源として捉え、地域企業や団体などと共創し、スポーツの力で新たな価値を生み出す革新を目指します。

3 > スポーツ×感動

スポーツの持つ魅力を最大限に活用し、地域に感動と活気をもたらすまちを目指します。

4 > スポーツ×共生

年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、すべての市民がスポーツを通じてつながり合える社会や環境づくりを目指します。

3. 施策体系

基本理念	分野	目標	基本施策	
「スポーツの力で創る みんなが輝くまち いわた」 Well-beingな暮らしと持続可能な地域社会の実現	1 スポーツ × 健幸 	1-1 こどものスポーツ 機会の充実	(1)こどもの運動習慣の定着 (2)こどもの可能性を引き出す スポーツ環境の推進	
		1-2 スポーツによる 健康づくり	(1)スポーツ参加の促進 (2)スポーツによる 健康寿命の延伸	
		2 スポーツ × 共創 	2-1 スポーツの力を 活用した 新たな価値の創造	(1)スポーツによる地域課題の解決 (2)地域資源のスポーツへの活用
			3 スポーツ × 感動 	3-1 スポーツによる 魅力発信
	3-2 プロスポーツチーム を活かした まちづくりの推進	(1)ホームタウン活動の深化・拡大 (2)アスリートと連携した取組の 推進		
	4 スポーツ × 共生 	4-1 スポーツを通じた 共生社会の実現		(1)だれもがスポーツに親しめる 機会の提供 (2)人と人をつなぐスポーツ推進
		4-2 スポーツに親しめる 環境づくり		(1)スポーツに関わる人材の 確保と育成 (2)スポーツ施設の利用促進

主な取組	
■こども向け運動教室の充実 ■運動プログラムの提供	■プロスポーツチームによるスポーツ体験
■多様なスポーツに親しむ機会の提供	■全国大会出場者への支援
■成人向け運動教室の開催 ■職場と連携した運動習慣の定着支援	■いわたスポレク健康フェスティバルの開催
■健康づくり運動プログラムなどの普及・啓発 ■気軽に楽しめる運動の周知	
■スポーツプラットフォームの活用 ■スポーツ推進委員会との連携	■スポーツ協会などとの連携
■商業施設連携スポーツイベントの開催 ■デジタル技術を活用したまちづくり	■自然環境活用型スポーツの充実
■大規模スポーツイベントの開催 ■ダンスイベントの開催	■ジュビロ磐田メモリアルマラソンの開催
■スポーツツーリズムの推進 ■大会・合宿の誘致	■シティプロモーションの推進
■ジュビロ／レヴズー斉観戦事業 ■地域一体型応援文化の醸成	■市民参加型ホーム&ホストタウン活動 ■観戦機会の拡充 ■プロスポーツチームへの支援
■アスリートと連携した運動教室・体験会の実施 ■多様な分野でのアスリートとの連携	
■障がい者スポーツやインクルーシブスポーツの推進 ■発達段階に応じた運動教室の開催	■パラアスリートによる講演会や体験会の実施
■通いの場支援 ■スポーツを通じた国際交流の取組	■世代間交流イベントの開催
■指導者を対象とした講演会などの実施 ■地域指導者の充実	■スポーツ推進委員への研修の実施 ■スポーツボランティアの充実
■スポーツ施設の再編整備 ■デジタル技術を活かした利便性の向上	■スポーツ施設への空調設備導入 ■スポーツ施設の改修 ■各スポーツ施設事業の情報発信

第4章 具体的な施策展開

1

スポーツ×健幸



新規：新たに取り組むもの

拡充：内容の充実に取り組むもの

重点：特に重点的に取り組むもの

1-1 こどものスポーツ機会の充実

こどもの体力向上と運動習慣の定着を図ります。また、少子化や部活動の地域展開という社会情勢をふまえ、すべてのこどもが発達段階に応じて多様なスポーツに親しむことができる機会の提供を目指します。

【成果指標】

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
スポーツが好きと感じるこどもの割合（小学5年生）	男子：94.1% 女子：86.6%	男子：95% 女子：90%

基本施策(1) こどもの運動習慣の定着

こどもがスポーツに親しむきっかけとなるよう、楽しみながら身体を動かす各種教室の実施やプログラムの提供に取り組めます。

主な取組	内容
重点 こども向け運動教室の充実	こども向けの運動教室を実施し、楽しんで体を動かす場の充実に取り組めます。
プロスポーツチームによる スポーツ体験	プロスポーツチームによるスポーツ体験教室などを実施し体を動かすことの楽しさを伝えるとともに、プロスポーツチームを身近に感じるきっかけを提供します。
運動プログラムの提供	親子運動など家庭で取り組める運動をまとめ、展開することで、手軽に運動できる習慣づくりを支援します。

コラム
1

親子ふれあい体育教室

親子で触れ合いながら運動を行うことで、運動の楽しさを味わってもらい、自然に運動に親しんでもらうことを目的として実施しています。

参加者からも「親子で楽しく運動ができた」、「普段はできない運動がたくさんできて楽しかった」という声をいただいています。



基本施策(2) こどもの可能性を引き出すスポーツ環境の推進

こどもの個性や可能性を引き出すことができるよう、多様なスポーツに親しむ機会の充実を図ります。また、スポーツで活躍する夢をもつ子どもたちを支援できるよう、こどものスポーツ環境の充実を図ります。

主な取組	内容
拡充 多様なスポーツに親しむ機会の提供	こどもたちに複数のスポーツを体験してもらい、体を動かすことの楽しさを知る機会やスポーツを始めるきっかけづくりの場を提供します。
全国大会出場者への支援	地区予選を勝ち抜き全国大会等へ出場を決めた選手・チームを支援するため、賞賜金の支給を行います。

コラム
2

ス ポ カ ル
SPO☆CUL IWATA

こどもたちがスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保し、学校の枠を超えて仲間とともに親しみ、楽しみ、挑戦できる新たな地域クラブ活動です。

自分の興味、関心に応じた活動に参加できるように、既存の学校部活動を地域連携しながら再編し、地域におけるスポーツ、文化などの活動団体や個人活動者の参画を得て、新たな地域クラブ化を目指していきます。

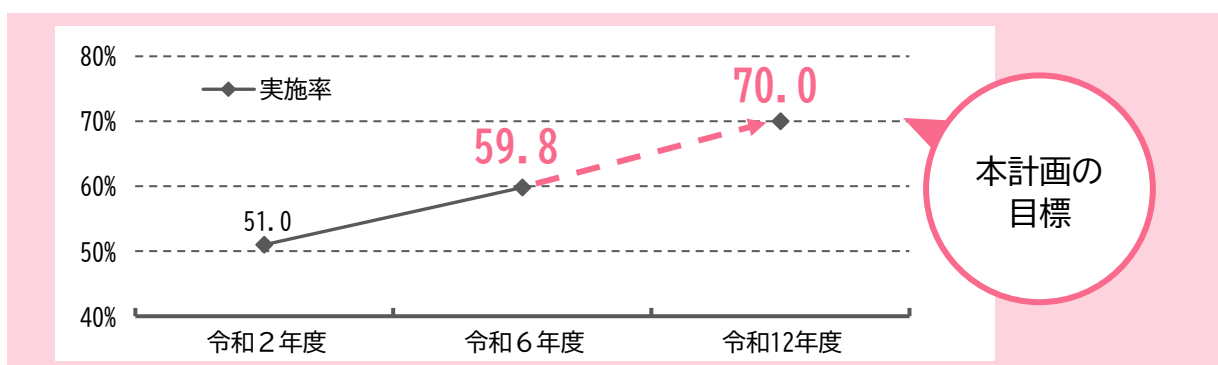


1-2 スポーツによる健康づくり

スポーツと健康づくりにアプローチした施策を展開します。単なる運動実施にとどまらず、スポーツを通じた社会参加、ストレス解消プログラムなど包括的な健康づくりの推進を目指します。

【成果指標】

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
スポーツ実施率	59.8%	70%



基本施策(1) スポーツ参加の促進

運動不足になりがちな子育て・働き盛り世代やこれまでスポーツに関わってこなかった人も、気軽に継続してスポーツを楽しむことができる環境づくりに取り組みます。

主な取組	内容
重点 成人向け運動教室の開催	各スポーツ施設における多様なレベルに応じた運動教室の開催に取り組みます。
いわたスポレク健康 フェスティバルの開催	各スポーツ団体と協力し、だれもが参加できる様々な運動種目の体験イベントを開催します。
新規 職場と連携した運動習慣の 定着支援	市内の企業に勤める働き盛り世代の健康の維持・増進のため、運動習慣の定着を支援します。

コラム 3

いわたスポレク健康フェスティバル

様々なスポーツ体験や健康に関するブースが設けられ、だれでも楽しく身体を動かすことができる、磐田市の「スポーツの秋」恒例のスポーツイベントです。

市内の競技団体やスポーツ推進委員会など各スポーツ団体による体験ブースが多数設けられ、多くの人で賑わいます。



基本施策(2) スポーツによる健康寿命の延伸

健康寿命延伸の土台となる生活習慣の改善や生活習慣病の発症予防のため、スポーツによる健康づくりを支援します。

主な取組	内容
健康づくり運動プログラムなどの普及・啓発	生涯にわたり健康で生き生きと生活できる体づくりのため、体を動かす必要性や効果について普及啓発を行います。
拡充 気軽に楽しめる運動の周知	ウォーキングやジョギングなどの、一人で気軽かつ日常的に楽しめる運動を紹介していきます。

コラム

4

いきいき百歳体操

いきいき百歳体操は、健康寿命を延ばし、一人ひとりが健康で生き生きとした生活を送ることを目指すため、地域住民が主体となって取り組んでいる体操です。筋力の維持や向上、食べる力をつける、認知機能の維持・向上などの効果があります。



磐田市スポーツ推進委員 講師派遣事業

スポーツ推進委員を講師として派遣する「講師派遣事業」を年間を通じて行っています。ポッチャやアキュラシーといった障がい者スポーツ、モルックなどのニュースポーツの体験をはじめ、健康づくり体操やレクリエーション、脳トレなどを実施しています。



2

スポーツ×共創



新規 : 新たに取り組むもの

拡充 : 内容の充実に取り組むもの

重点 : 特に重点的に取り組むもの

2-1 スポーツの力を活用した新たな価値の創造

スポーツを地域資源として捉え、地元企業や、団体などと連携し事業を推進していきます。「学びと対話」により新たな価値を創造することで発展的で持続可能なまちを目指します。

【成果指標】

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
他分野×スポーツとの取組数	—	20件

基本施策(1) スポーツによる地域課題の解決

スポーツの持つ可能性を最大限活用するため、「スポーツの力」で地域課題の解決に取り組む活動を支援します。

主な取組	内容
重点 スポーツプラットフォームの活用	スポーツという共通のテーマを通じてスポーツチーム・企業・金融機関・団体・大学・行政などが互いにつながることで、新たな価値を創造していきます。
スポーツ協会などとの連携	スポーツ協会及び各競技団体と連携し、地域のスポーツ活動を推進することで地域課題の解決を図ります。
スポーツ推進委員会との連携	スポーツ推進委員会と協力して事業を実施するとともに、地域における円滑な活動を支援します。

コラム
5

いわたスポーツプラットフォーム

「集まる場」「学ぶ場」を定期的で開催することで会員たちの関係性が強化され、それぞれの強みを認識することで共創による新たな取組の創出を目指しています。



基本施策(2) 地域資源のスポーツへの活用

商業施設や自然環境といった資源をスポーツ資源として捉え、有効活用することで、まちづくりを推進していきます。

主な取組	内容
商業施設連携スポーツイベントの開催	商業施設と連携したウォーキングイベントなど、商業施設を楽しみながらできるイベントを開催します。
自然環境活用型スポーツの充実	山・川・海など磐田市ならではの自然環境を活用し、魅力的なスポーツ環境の提供に取り組みます。
新規 デジタル技術を活用したまちづくり	関係団体と協働し、デジタルを活用した市内回遊などスポーツとデジタルとの連携を推進していきます。

コラム

6

ららぽ 楽La歩ウォーク in いわた

普段の買い物ルートを「ウォーキングコース」にすることで日常生活の中に運動習慣を取り入れ、スポーツを身近に感じてもらう機会とするとともに、健康意識を高めるきっかけとすることを目的として市内の商業施設を活用したウォーキングイベントです。

チェックポイントをまわり、キーワードを集めることで、館内で使用できるクーポン券をゲットすることができます。

2025年の開催時には、磐田市ゆかりのスポーツチームも各チェックポイントに参加し、イベントを盛り上げました。



3

スポーツ×感動

新規：新たに取り組むもの

拡充：内容の充実に取り組むもの

重点：特に重点的に取り組むもの

3-1 スポーツによる魅力発信

スポーツ文化と地域資源を組み合わせた魅力発信を展開します。マラソン大会の実施や豊富な天然芝などのスポーツコンテンツを活用して、全国に向け、認知度向上と交流促進を図ります。

【成果指標】

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
全国調査による「スポーツのまち」の認知度	2位	1位（継続）

基本施策(1) スポーツを通じた賑わいの創出

地域活性化や賑わい創出を促進するため、魅力あるスポーツイベントの開催と発信に取り組めます。

主な取組	内容
拡充 大規模スポーツイベントの開催	スポーツへの関心の高まりや、地域活性化を目指し、著名ゲストやトップアスリートによるスポーツイベントを開催します。
ジュビロ磐田メモリアルマラソンの開催	全国から参加者が集まる「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」を開催し、磐田の魅力を発信していきます。
ダンスイベントの開催	「磐田ダンスエボリューション」や「静岡県高校ダンス部コンテスト in 磐田」といったダンスイベントを開催することで、ダンスを通じた交流の創出や魅力の発信に取り組めます。
ジュビロ/レヴズと連携したイベントの開催	プロスポーツチームと連携したイベントを開催することにより、磐田の魅力を発信していきます。

基本施策(2) スポーツによる交流人口の拡大

スポーツ大会・合宿等誘致や、観光分野と連携したスポーツツーリズムの推進により、交流人口の拡大を図ります。また大規模な大会やイベントの情報発信を積極的に実施していきます。

主な取組	内容
拡充 スポーツツーリズムの推進	観光分野と連携することで、スポーツにおける市の魅力発信と交流人口の増加により地域経済の活性化を図ります。
シティプロモーションの推進	スポーツの特色や魅力を活用することで、積極的なシティプロモーションを実施します。
大会・合宿の誘致	市外から多くの競技者・観戦者が訪れる大会等の誘致に取り組めます。

コラム 7

ジュビロ磐田メモリアルマラソン

おとなから子どもまで、市内外から多くのランナーが参加する磐田市を代表するスポーツイベントです。

ゆとりを持たせた制限時間で、初参加の方も余裕をもって楽しめます。

沿道では地元の子どもたちが元気いっぱいにハイタッチで迎えてくれ、エイドではメロンなどの特産品といった地域の恵みで皆様をもてなします。

第28回大会では、市制20周年を記念し、ジュビロ磐田のレジェンドたちによるトークショーを開催しました。

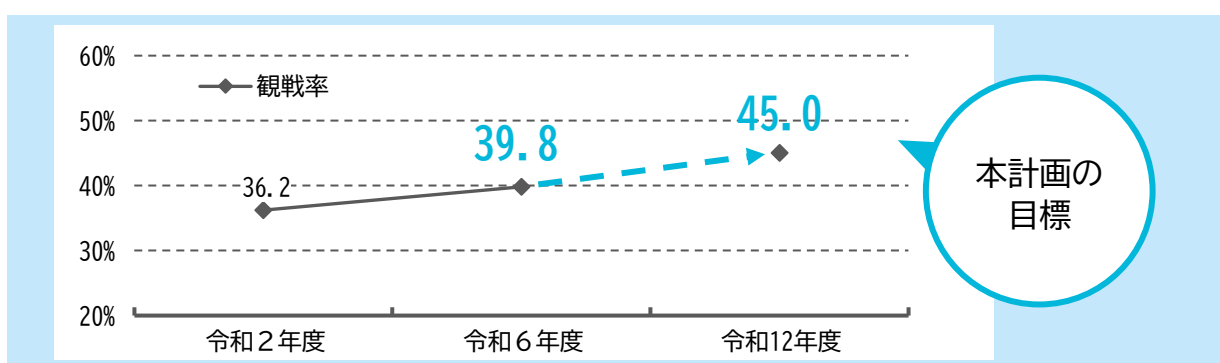


3-2 プロスポーツチームを活かしたまちづくりの推進

ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのプロスポーツチームの知名度と発信力を活用し、まちづくりを推進します。チームと市民が一体となったまちづくりを進め、郷土愛の醸成とシビックプライドを育みます。

【成果指標】

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
過去3年間に現地にてスポーツ観戦をしたことがある市民の割合	39.8%	45%



基本施策(1) ホームタウン活動の深化・拡大

ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどの、本市に拠点を置くチームを応援するホーム&ホストタウン活動を深化・拡大することで、「シビックプライド」を育みます。

主な取組	内容
ジュビロ/レヴズ一斉観戦事業	一斉観戦事業などを通じて、ホーム&ホストタウンチームを応援することによる郷土愛の醸成を図ります。
市民参加型ホーム&ホストタウン活動	市内を本拠地とする各トップチームの選手が小学校などを訪問する交流事業の実施に取り組みます。
地域一体型応援文化の醸成	ホーム&ホストタウンとしての意識向上のため、チームを紹介する展示や掲示など街全体を装飾するシティドレッシングを行います。
拡充 観戦機会の拡充	観戦のきっかけづくりとなるよう市民招待の実施などに取り組みます。
重点 プロスポーツチームへの支援	プロスポーツチームが、より地域に根差した活動ができるよう支援をしていきます。

基本施策(2) アスリートと連携した取組の推進

トップクラスのスポーツにふれる機会の提供や、多分野でのアスリートとの連携した活動を推進していきます。

主な取組	内容
新規 アスリートと連携した運動教室・体験会の実施	アスリートと連携した運動教室や体験会を実施し、トップクラスのスポーツにふれる機会の提供に取り組みます。
拡充 多様な分野でのアスリートとの連携	多様な分野において興味関心のきっかけをもってもらえるよう、アスリートと連携した活動を行います。

コラム
8

ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦 静岡ブルーレヴズホームゲーム中学生一斉観戦

磐田市は、ジュビロ磐田・静岡ブルーレヴズの「ホーム&ホストタウン」です。ホーム&ホストタウンに住む子どもたちが、地域のプロスポーツチームであるジュビロ磐田・静岡ブルーレヴズの試合を観戦することで、様々なスポーツに関心を持つきっかけづくりとするとともに、地元チームへの愛着や、磐田市をふるさととして誇りに思い、将来にわたって磐田市を愛する気持ちを育むことを目的として開催しています。



4

スポーツ×共生



新規：新たに取り組むもの

拡充：内容の充実に取り組むもの

重点：特に重点的に取り組むもの

4-1 スポーツを通じた共生社会の実現

だれもがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保できるよう、年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、すべての市民がスポーツを通じてつながり合うことができる社会や、環境づくりを目指します。

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
インクルーシブ(ユニバーサル)スポーツを経験したことがある市民の割合	9.9%	15%

基本施策(1) だれもがスポーツに親しめる機会の提供

年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、だれもがスポーツに親しむことができる機会や環境の充実に図ります。

主な取組	内容
重点 障がい者スポーツや インクルーシブスポーツの推進	ウォーキングフットボールの体験会やインクルーシブスポーツのイベントなど性別や年齢、障がいの有無に関わらず楽しむことができる機会を提供します。
発達段階に応じた運動教室の開催	発達段階に合わせて体を動かす楽しさを体験できる場の充実に図ります。
パラアスリートによる講演会や 体験会の実施	パラアスリートによる講演会や体験会を実施し、障がいに対する理解を深めていきます。

基本施策(2) 人と人をつなぐスポーツ推進

スポーツの人と人をつなぐ力を活かし、スポーツを通じた交流や仲間づくりを支援します。

主な取組	内容
通いの場支援	「シニアクラブ」や「高齢者サロン」など、だれもが参加できる「運動と交流」の場づくりを支援します。
世代間交流イベントの開催	こどもから高齢者まで幅広い世代がともに楽しむことができるスポーツイベントを開催します。
新規 スポーツを通じた国際交流の取組	国籍、文化、習慣の違いに関わらず、だれもが互いの文化を尊重し、学びあい、支えあっていくことを目的として、スポーツを通じた交流に取り組みます。

コラム

9

ウォーキングフットボール体験会

「歩いて行うサッカー」であるウォーキングフットボールの体験会を開催しました。年齢や性別、サッカー経験の有無に関わらず参加ができるため、市民の健康増進だけでなく、世代を超えた交流の促進も目的としています。

今後も、磐田市の資源であるサッカー文化を基に、だれもが一緒に楽しむことができるウォーキングフットボールの普及に取り組んでいきます。



4-2 スポーツに親しめる環境づくり

スポーツを支える人材の確保や快適に利用できる施設整備により、持続可能なスポーツ環境を構築します。

【成果指標】

成果指標	実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
スポーツ施設などの年間利用者数	130.6万人	135万人

基本施策(1) スポーツに関わる人材の確保と育成

地域スポーツを支えるうえで必要な人材の確保・育成に取り組みます。

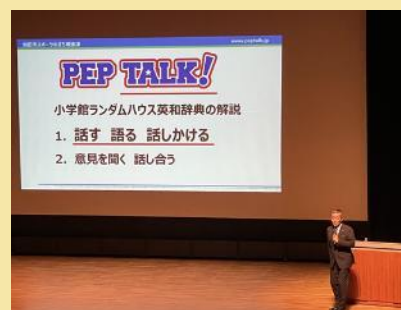
主な取組	内容
重点 指導者を対象とした講演会などの実施	スポーツ指導者・学校教職員などを対象に、学ぶ機会を提供し、指導力の向上を図ります。
スポーツ推進委員への研修の充実	市民スポーツのコーディネーターとして活躍しているスポーツ推進委員の人材の育成に取り組みます。
地域指導者の充実	生徒が専門的な指導を受けられることができるよう地域指導者を配置します。
スポーツボランティアの充実	各種スポーツイベントにおいて、必要となるボランティアの募集と活躍の場の充実を図ります。

コラム 10

ペップトーク講座～やる気を引き出す魔法の言葉～

数々のスポーツ現場で活躍された方を講師に迎え、教員やスポーツチームの指導者を対象とした講演会を開催しました。

自分や相手のモチベーションを高めるポジティブな言葉かけである「ペップトーク」を学んだ受講者からは、「すぐに実践したい」という声があがりました。



基本施策(2) スポーツ施設の利用促進

安心・安全で快適なスポーツ施設の整備に取り組むことで利便性を向上させ、また、スポーツに関する情報発信を積極的に行うことでスポーツ施設の利用を促進します。

主な取組	内容
重点 スポーツ施設の再編整備	快適なスポーツ環境を持続可能なものとするため、老朽化が進むスポーツ施設の再編整備について検討していきます。
スポーツ施設への空調設備導入	体育館に空調設備を計画的に設置し、利用者の快適なスポーツ環境を確保するとともに、指定避難所としての環境改善を図ります。
スポーツ施設の改修	安心・安全に施設を利用できるよう、計画的に修繕を実施していきます。
デジタル技術を活かした利便性の向上	キャッシュレス決済やスマートロックの充実など、利用者の利便性向上に取り組みます。
各スポーツ施設事業の情報発信	公式ホームページのほかSNSなどを活用し、スポーツに関する情報提供の充実を図ります。

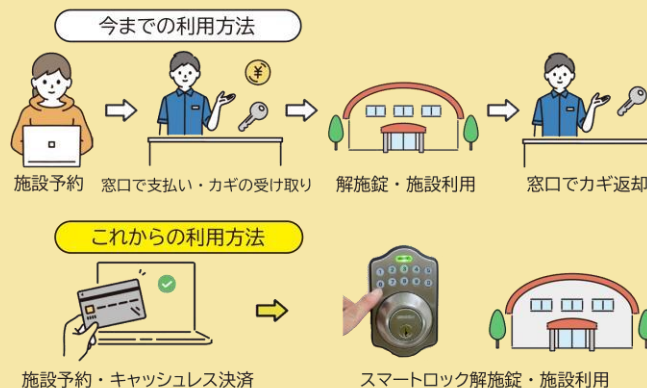
コラム 11

スマートロックシステムの導入

「窓口に行かない」体育施設利用の実現として、令和5年11月より小・中学校のスポーツ施設にスマートロックを導入しています。

スマートロックとはカギの代わりに、利用ごとに設定される暗証番号を使用して施設の解錠ができる電子錠のことです。

今までは、施設利用者が市内5箇所の有人施設まで、鍵を受け取りに行き、返却をしていましたが、スマートロックの導入により利用者の利便性向上や、移動に係る自動車等のCO₂削減にも繋がっています。



第5章 計画の推進にあたって

1. 計画の推進体制

(1) 庁内の体制

市民の生活における様々な場面でスポーツの力を活用していくため、スポーツのまち推進課を中心に、健康福祉部門、こども部門、経済産業部門など、様々な部署との連携を図り、全庁をあげて本計画を推進していきます。

(2) 国や県、他市町との連携

国や静岡県と連携を図りながら各種事業を推進することで、より一層のスポーツ環境の充実を目指します。

また、他市町と連携を強化し、交流事業や共同での大会・イベントの開催等に取り組んでいきます。

(3) スポーツ団体・民間企業・大学等との連携

スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域団体、大学、企業等と、互いに連携しながら、スポーツの力を活用した「共創」に取り組めます。



2. 計画の点検・評価

本計画の推進にあたっては、各スポーツ団体との連携を密にし、計画の進捗状況を把握するとともに、毎年「磐田市スポーツ推進審議会」において取組の進捗状況を確認します。

また、「磐田市スポーツ推進審議会」等の意見を施策の推進につなげ、PDCAサイクルの中で必要に応じた見直しを行うことで、事業の効果を高めていきます。



3. 成果指標一覧

1 スポーツ×健幸

成果指標		実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
1-1	スポーツが好きと感じるこどもの割合 (小学5年生)	男子：94.1% 女子：86.6%	男子：95% 女子：90%
1-2	スポーツ実施率	59.8%	70%

2 スポーツ×共創

成果指標		実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
2-1	他分野×スポーツとの取組数	—	20件

3 スポーツ×感動

成果指標		実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
3-1	全国調査による「スポーツのまち」の認知度	2位	1位（継続）
3-2	過去3年間に現地にてスポーツ観戦をした ことがある市民の割合	39.8%	45%

4 スポーツ×共生

成果指標		実績値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
4-1	インクルーシブ（ユニバーサル）スポーツを 経験したことがある市民の割合	9.9%	15%
4-2	スポーツ施設などの年間利用者数	130.6万人	135万人

資料編

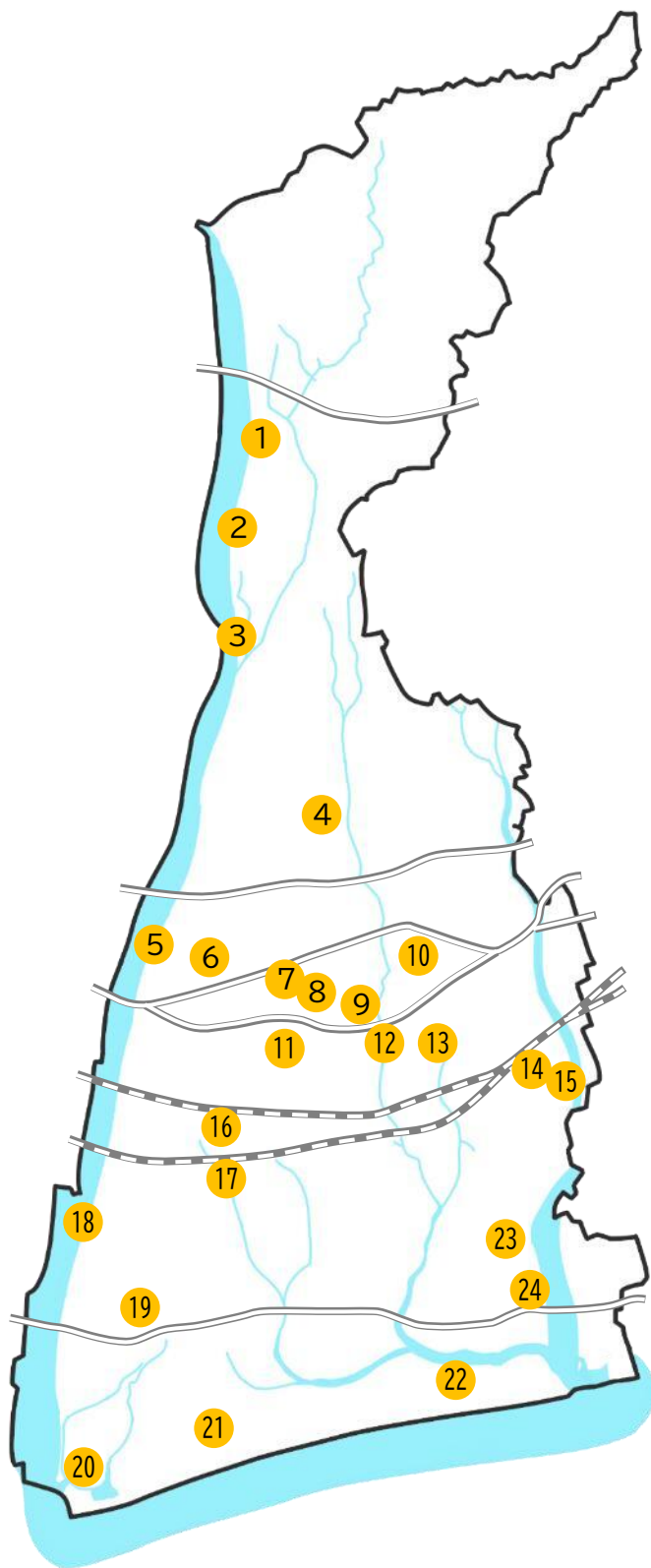
1. 磐田市スポーツ推進審議会委員名簿

(令和7年度)

No.	団体名称	氏名
1	NPO法人磐田市スポーツ協会	高橋 一良
2	磐田市スポーツ推進委員会	岡村 美也子
3	磐田市スポーツ推進委員会	市川 龍也
4	株式会社ジュビロ	加藤 真史
5	静岡ブルーレヴズ株式会社	田井中 亮範
6	竜洋スポーツクラブ	山下 安範
7	静岡産業大学	中西 健一郎
8	磐田市自治会連合会	青野 博美
9	磐田市観光協会	角 一幸
10	磐田市身体障害者福祉会	高橋 廣行
11	公募	瀬田川 歩
12	公募	酒井 里絵
13	磐田市立竜洋西小学校	宮沢 正志
14	磐田市立南部中学校	伊藤 一司

2. 市内運動施設一覧

1	磐田市豊岡憩いの広場 磐田市豊岡グリーンボウル場 磐田市豊岡体育館 磐田市豊岡ふれあいの森 磐田市豊岡多目的運動場 磐田市豊岡野球場 磐田市豊岡テニスコート
2	豊岡天竜川グラウンド
3	磐田天竜川グラウンド
4	磐田スポーツ交流の里 ゆめりあ球技場
5	豊田天竜川グラウンド
6	磐田市アミューズ豊田
7	豊田加茂テニスコート 豊田加茂グラウンド
8	豊田野球場
9	磐田卓球場（ラリーナ） 磐田かぶと塚公園グラウンド 磐田弓道場 磐田市陸上競技場 磐田アーチェリー場 磐田市総合体育館
10	磐田東大久保運動公園 グラウンド 磐田東大久保運動公園 テニスコート
11	磐田相撲場
12	磐田城山球場
13	磐田安久路公園多目的 グラウンド
14	磐田兎山公園野球場
15	磐田稗原グラウンド
16	豊田ラブリバー公園 テニスコート
17	磐田温水プール
18	竜洋天竜川西堀河川敷公園 グラウンド
19	磐田市竜洋体育センター
20	竜洋海洋センタープール 竜洋海洋公園テニスコート 竜洋海洋公園野球場 竜洋海洋センター体育館
21	竜洋スポーツ公園サッカー場
22	福田公園テニスコート 福田公園野球場 福田公園多目的グラウンド
23	福田南島体育館 福田屋内スポーツセンター
24	はまぼう公園グラウンド



3. ホームタウンチームの紹介

本市はジュビロ磐田、静岡SSUボニータのホームタウン、静岡ブルーレヴズのホストエリアとして、複数のスポーツチームが活動の拠点としているまさに「スポーツのまち」と呼ぶにふさわしい市です。

今後もホームタウンチームと連携し、スポーツの推進に取り組んでいきます。



(1) ホーム&ホストタウンチーム



(2) 主な連携事業

- ・ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦
- ・ジュビロ磐田サッカー教室
- ・ジュビロ磐田選手会 小学校訪問
- ・静岡ブルーレヴズホームゲーム中学生一斉観戦
- ・タグラグビー教室
- ・夢語り授業
- ・ジュビロ磐田メモリアルマラソン
- ・ラグビー体験

協力:ジュビロ磐田/静岡ブルーレヴズ/静岡SSUボニータ



SSU
Bonita

© 大島司



Júbilo
IWATA

©JUBILO



SHIZUOKA
BlueRevs

© SHIZUOKA BlueRevs

HOME & HOST TOWN IWATA

<編集・発行>

磐田市 スポーツのまち推進課

〒438-8650

静岡県磐田市国府台3番地1

TEL 0538-37-4832

FAX 0538-37-5034



いわ
た

©磐田市